

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	「その人らしい普通の暮らし」を理念に掲げ、実戦に努めている。コロナ禍で色々制限はされているが、地域の中で暮らしていることを大事にし、施設の中で暮らしている「人」ではなく、地域住民の一人として暮らすことを目標にしています。左記の自己評価で評価するのはコロナ禍であること、職員の入れ替わりがあり、まだ理念が共有できていないことが挙げられる。			施設開設当初からの運営理念実践のために、入居者一人ひとりに施設側が合わせて対応している。コロナ禍で制限があり、職員の入れ替わりもあるが、運営理念を実践し続けていきたい。
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている B. ②ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	これまでは、2ヶ月に一度の運営推進会議の開催、買い物や、行事ごとで、地域との交流を持ってきた。現在は、散歩やドライブにとどまるが、支援は継続している。地域の人からの頂き物もある。また、配食サービスを行っているが、基本的には利益は求めず、地域のために目指している。	今後もしばらくはコロナの影響で、外出の頻度等は減ると思われる。それをどのように支援して行くのか。		コロナ禍で、出かける機会は減少しているが、配食サービスを実施したり、近所の散歩をすることで、地域とのつながりを継続していく。コロナが落ち着いたら、以前のように地域サロンへの参加等も積極的に進めて行くことを期待したい。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている B. ②ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナの影響で2年余り会議の場を設けてはいない。以前は、災害時の要望や地域の方のご意見などをいただくなど、一方的な報告にならないように活用している。また、行事報告などは、わかりやすいように、写真を用いて行っている。運営推進会議メンバーには、避難訓練にも参加していただいている。			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面で行う運営推進会議は中止となっている。資料の送付だけではなく、意見を伺う対応も取れたら尚良いと思う。
4	市町村との連携	市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 充分にできている B. ④ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍になってからは町との連携がより取れるようになった。単独事業所のよつ葉は、感染者が出た場合、ワクチン接種において様々な課題があったため、連携を取ることが必要不可欠でした。一方、地域包括支援センターとは、地域ケア会議に参加し、認知症になっても地域で暮らせるまちづくりを目指しています。	地域とともにあるグループホームとして今後どのようにあるべきか。		今後も地域ケア会議、認知症支援協議体のメンバーとして参加し、行政とともに高齢者がいつまでも暮らし続けることができるまちづくりを目指していく。また、コロナワクチン接種等、必要に応じて行政と連携し、入居者の支援を行っている。ただし、ご家族や地域の民生委員に連携の現状が十分に伝わっていないので、その点はさらに力を入れる必要がある。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている B. ④ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	玄関の施錠に関しては、夜勤帯のみ行い、日中は開けています。場所がわからず、独りで外に出られる方もいるので、玄関センサーもつけています。センサーについては、自由がないという意見もあるかもしれませんが、過去に外に出て行くことに気づかず危険な場面もあり、職員の目だけでは限界があることを痛感し、設置しています。センサーがなったからといって、行動を制御せず利用者が目的に沿った行動を取れることの方を大切にしています。		A. 充分にできている B. ④ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	現在の利用者さんはのびのびと暮らされている様子がうかがえるので、最大限安全に配慮しながら、引き続き身体拘束をせずに行っていくほしい。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている B. ④ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体的な暴力はなくても、言葉が暴力となり、利用者さんの生活を萎縮させてしまうことについては、日頃の支援でできることがあれば個別に話し合い、ミーティングにおいても話あっている。自分自身の言動を振り返る機会は今後も必要。		A. 充分にできている B. ④ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	言葉遣いが優しい職員が多く雰囲気が良い。今後も毎月の職員によるミーティングを行い、話し方や言葉遣いなども確認し、適切な対応などの職員でもとれるよう努めている。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ④あまりできていない D. ほとんどできていない	権利擁護に関して学ぶ機会は設けていないが、必要な場面があれば、勉強会の機会を持ちたい。			成年後見制度のパンフレットを取り寄せ、職員に周知するなど、制度の概要程度は日頃から知識として知っておいていただけるよう、努めていきたい。
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 充分にできている B. ④ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ご家族の方々に伝わりやすい説明を心がけている。よつ葉の方針、基本的な考え方、入所後の暮らし方については、良い点ばかりではなく、ご家族の協力のもとに利用者さんの生活が成り立つことも伝えるよう心がけている。			契約時には、入所後の生活など、家族がわかりやすく、納得できる説明をお願いしたい。
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ④あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍ということもあって、ご家族との面会は控えているが、電話やメールで直接ご意見をいただく機会がある。コロナ禍での面談の方法や職員対応に関して、ご意見を直接いただいたこともあり、見直す良い機会になった。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. ④あまりできていない D. ほとんどできていない	電話やメールなど、意見があれば直接言えることとなっている。アンケートや意見箱などの設置し、より意見を伝えやすいような仕組みを作ると、家族側も安心して伝えることができると思われる。リモート面会を活用し、いつでも顔を見られる機会が持てるとうれしいと思う。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ④あまりできていない D. ほとんどできていない	ケアに関しては、毎月ミーティングを行なっている。そのほか面談の機会を昨年から年2回もうけている。個別に30分ほど意見を伺っているが、本音を言える職員と、そうでない職員もいると思うので、日常の中で、伺う努力をしていきたいのが会社側の考え。			個人面談により、職員の意見を聞く機会を作られたことはとても良いことだと思う。今後、さらに工夫を重ねて職員が活き活き働けるような職場になればと思う。

11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の処遇改善を、すべての職員に毎月の給与にて支払っている。また、給与に関しては基本的には勤続年数経験、資格で職員、パートの給与を確定している。賞与の面では十分とは言いがたいが、職員給与が上がるよう、増設等を行なっている。休み、有給は、職員、パート共に希望通り取ることができている。		A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	資格や勤務年数等で給与を決定されている。仕事に対するやりがいを作るために、職員が提案しそれを検討できる仕組みなどがあるとよいと感じた。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている B. ほぼできている ✓C. あまりできていない D. ほとんどできていない	オンラインの研修の機会を設けたが、定期的にはできていない。しかし、事業所内での勉強会は課題が上がるたびに、なるべく早い段階で、勉強会に取り組むよう努めている。今年度は、コロナ対策、認知症ケア、胃腸炎の対応、排泄支援について行なっている。		A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	課題に対して、柔軟に勉強会を開催するなど、職員のレベルアップに努めている。その他にも、計画的に研修会へ参加したり、勉強会を実施することで、職員を育てられるとよい。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている ✓C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外部の事業所との交流は、管理者のみ行っている。コロナ禍が落ち着き、またはオンライン研修で交流の機会などがあれば、活用していきたい。			他市町のグループホームと定期的な交流があり、様々な取組を知るよい機会であると思う。町内でも、地域ケア会議等へ参加しており、他事業所、多職種の方々と交流する機会を持たれている。
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日常生活において、洗濯、洗い物、調理、掃除などを一緒に行っている。ご本人の気持ちを大切に支援している職員が多い。			能力に応じて役割をもち生活できている。他の入居者ができないことを、できる人が手伝うなど、支え合って生活する気持ちが築けている。母の様子を見ているとできないことは助けていただくことで、以前より生き生きとして暮らしているように感じるという意見もいただいた。
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている ✓C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で制限はあるが、ご自身のお墓参り、実家に帰るなどの支援をしている。ただし、すべての利用者さんができているわけではないので、支援に至っていない利用者さんへの対応を今後は話し合っていく。	よつ葉の庭だけでなく、お寺で待ち合わせるなどの対応は良いと思う。		コロナ禍で外出・面会に大きな制限をせざるを得ない状況。密を避けたり、家族に限定するなど、現在できる範囲で、対応していただいている。コロナが明けてから、もしくは、コロナが落ち着いた時に、もう少し面会の様子が変わるとありがたい。

II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	十分とは言えないが、ご本人の要望に耳を傾けて行く努力をしている。認知症が重度になっていく中では、利用者さんの「どう生きたいか」を中心に、今後のケアについてミーティングで話を進めている。今後はご家族の意見をもう少し取り入れていく方法、機会を持ちたい。			入所前に家族から生活歴を聞き取ったり、様式を活用したり、日頃から本人の要望に耳を傾けるようにしているなど、意向の把握に努めている。ご家族の要望がさらに反映されることに期待したい。
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	医師や看護師との状況の確認はこれまでに比べ改善していると思う。しかし、ご家族の気持ちの部分が十分に伺えていないと思う。「預かっていたいから」と思い意見を言えないご家族もいると思うので、よりフェアな関係でご本人のことを支援していきたいと思う。		A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族の思いを聞き取る方法を検討し、現在行っている計画作成に活かしていただきたい。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中の様子、夜間の様子を朝の申し送りや漏れのないように報告しているが、申し送りの内容が途中で途切れてしまうこともあった。今年度は、個人記録用紙の見直しと、記録として必要な情報は何かを話し合い、個々の変化に気づく体制づくりを行った。まだ記録にばらつきはあるが修正を重ねより良いものにした。		A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	記録用紙が職員間での情報共有に有意義なツールとなるよう、検討を続けてほしい。また、職員間での記録のばらつきを直し、的確な申し送りができる体制の構築を進めていただきたい。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	往診の活用、ターミナル期になると訪問看護の個別契約などの案内もしている。福祉用具、特にレンタルベットの案内や利用者さんの身体状況によっては、車椅子の購入などのお話もさせていただいている。しかしながら、入所後は全額自己負担であること、購入後のご本人の容体の変化もありうるので、慎重に検討していただいている。	施設だけで完結せず、家族に協力してもらう事で、面会の機会が増えるのではないかな？		買い物など、家族の事情に合わせて、職員が代理で行うなど、柔軟な対応ができている。一人ひとりのニーズに合わせて、可能な範囲での柔軟な対応ができると良いと思う。おオムツ等の購入は、施設でのまとめ買いを行っていたが、コロナ禍で、家族の面会も減ったのでご家族に足を運んでもらえるよう、ご家族対応にしたいと思う。
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている ✓C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナが終息したら、地域の独居宅への配食サービスにおいては、利用者さんと一緒に直接配達でき、サービスを受ける側から、提供する側になればと考えている。			一人暮らし高齢社宅への配食サービスを入居者が行うなど、地域資源の一つとして活躍できる機会がある。

21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナの影響で、十分な医療を受けられないことから往診を希望するご家族が増えた。今後のコロナの状況と、利用者さんの年齢を考えた時に、ターミナルを視野に入れたご判断のご家族も多い。これまではかかりつけ医での受診を推進してきたが、「安全」「安心」を考えるとこれまで通りは厳しいと判断している。			かかりつけ医と往診医を選択できるように対応しており、コロナ禍で利用者が安心して生活できるよう配慮されている。家族の中には通院の負担、心配が減ったと話す方もいる。
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	✓A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院がご自身に与える心因的影響は大きいと考えている。また、ご家族のご負担も大きいと考えている。ただし、医療の面では限界がある施設なので、慎重に病院側と連携し、治療がリハビリだけになったら、医師の許可を早めにとりたい旨をソーシャルワーカーにも伝えている。		A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	厚生病院との連携は、十分できていると思われる。その他の病院へ利用者が入院した際も、相談員等と密な連絡が取れるよう、準備していただきたい。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている ✓C. あまりできていない D. ほとんどできていない	なかなか早い段階でということまではできていない。目安として傾眠が増えた、食事が落ちたところとしている。今後の課題として利用者さんの急変も考え、往診の話急変の対応をご家族に伝えていきたいと思う。		A. 充分にできている B. ほぼできている ✓C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎月の個人報告書で、現状がわかり、また、往診や通院の際に主治医に伝えることを詳しく教えてくださるの助かっている。終末期の予測は大変難しいと思うので、早めの対策、家族の理解を得られるようにした方がよいとおもう。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ、胃腸炎などの訓練を今年度は行った。皮膚剥離の応急手当急変時の対応、ターミナル期に起こる体の反応についてもやっている。すべての職員が十分に身につけているとは言い難いが、定期的に研修を取り入れ、体で覚えていけるようにしたい。			急変や事故等の対応は、いざという時に全職員が適切にできるとは限らないが、訓練を重ねることによって、覚えていくこともあると思うため、毎年計画的に実施してほしい。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている ✓C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年3回の研修を行っているが、今年度は、コロナの影響もあり実際の避難には至っていない。11月に自身の避難訓練を行う予定。訓練を重ねる最善の方法をとれるようにしていきたい。また、地域の方々の協力なしでは避難の面では難しいところがあるので、引き続き協力していただけるよう発信していきたい。	区や周辺住民の協力を得て実施するのはどうか	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員、施設単体では利用者さんの避難はとて難しいと思うので、地域の協力は不可欠だと思う。近隣や地域の協力を呼びかけるなどの対策をすると思う。また、実際に協力を得て避難訓練を実施するのも良いと思う。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	声かけについては、ミーティング、面談を活用し職員に働きかけている。対応に関しては、介護士としてできること(近年は医療的な部分も可能なことが増えた)と、家庭的な暮らしを守る考えとして、この支援は「よつ葉の支援としてどうか」という観点で話し合う機会を持った。その背景には、「ご本人の気持ち」を大切にすることを考えている。		A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	声かけについては、引き続き、相手を敬う気持ちを忘れずに支援していただきたいと思う。医療的な支援が増えてくる中では、話し合いを重ねながら適切な支援に結びつけて欲しいと思う。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者さんとの会話を大切にしている。意見の言える声かけ、要望を聞き出す話の仕方などを大切にしている。一方で、ついトイレに行きましょ、「ご飯を食べましょ」と声をかけて、それが「何のために」、「いつのご飯」なのかなど情報を省いてしまいがちである。そこを注意して、点となっている生活を線で繋げていけたらと思っている。			利用者さん一人ひとりのことを考えて支援していることが十分に伝わってくる。今後も職員全体で支援がなされ、豊かな暮らしになることが期待される。
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	✓A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事づくりは共同で行っている。食事の内容も彩りを意識している職員が多い。好みや、食事の形態も個別に応じており、これまでより、みじん切りやとろみなどの活用も増え食事づくりを行なっている担当者には負担をかけていることが多いが、一生涯懸命に行っている。		✓A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員と利用者が一緒に食事作りをしたり、庭で食べる、バイキングを行うなど、自宅ではなかなかできないことを行い、利用者さんが楽しめるような工夫をしている。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人一人の状況に応じて行っている。こまめに水分や食事摂取量を記載し、いつもと異なるようならば記録し申し送りを行っている。食事が取りづらい時に備えて、経口栄養剤(エンシュア・イノラスなど)を活用して口から食事が取れることを大事にしている。			食事の状況を個別に記録し、申し送り時に他の職員へも情報共有することで、適切な支援につながっている。食事を口からとることも大事なことから、医師からのアドバイスも取り入れ、施設で可能な支援を継続してほしい。また、行事に参加された方からは、行事の際の食事も大変美味しく、地域の方も喜んでいただく工夫がなされていて良かったと意見をいただきました。
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	✓A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	歯科医の往診の活用、アドバイスをいただき、口腔内を綺麗に保てる利用者さんが増えた。毎食後の口腔ケアをこれまででは行なってきたが、それでは、利用者さんの日常が食事、排泄、口腔ケア、入浴で終わってしまっていたので、必要な人のみの口腔ケアが変わっている。		✓A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	歯科医師から専門的なアドバイスをもらい、個別に対応を変え、必要以上の支援ではなく、適切な量の支援に変えることで、生活全体を豊かにできるよう、考えながら支援できている。

31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> A. 充分にできている <input type="checkbox"/> B. ほぼできている <input type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	そのように取り組んでいる。特に便秘は日常生活に大きな影響が出ており、これまでは、洗腸を用いた支援を行っていた。しかしこの行為について、安全性やご本人の気持ちを考えてときに、不適切であると考え、現在は食事、マッサージ、運動、下剤を一人一人に応じて活用し便秘の解消に取り組むこととしている。		<input checked="" type="checkbox"/> A. 充分にできている <input type="checkbox"/> B. ほぼできている <input type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	今まで行っていた支援も、不適切であると感じれば、よりよい支援に変えるなど、利用者さんのことを第一に考えた個別支援ができている。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<input type="checkbox"/> A. 充分にできている <input checked="" type="checkbox"/> B. ほぼできている <input type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	体の状態から曜日を決めている人もあるが、なるべくご本人の要望を伺ってその通りに入浴できるように取り組んでいる。「入りたくない」が続くと入浴しただけのような声かけを職員一人一人は頑張っている。			基本的には自由に入浴できる体制をとっており、利用者さんの気持ちを優先しながらも、必要な声掛け等を行い、皆が気持ちよく生活できるよう心がけている。また、簡単な入浴だけで済ませていた母親が、歌を歌いながら気持ちよく入浴していることを知り驚きと感謝の報告をいただいている。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> A. 充分にできている <input type="checkbox"/> B. ほぼできている <input type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	そのように取り組んでいる。職員はおおよそ利用者さんの一人一人の睡眠の状況を把握している。今しているうたた寝は普通のことなのか、いつもの違うことなのかよく理解していると思う。状況に応じて、目の行き届くところで休んでいただいたり、居室で休息を取っていただいたりしている。			職員が一人一人の睡眠状態を把握し、見守ることができている。夜間の良い眠りを促すための活動もされている。
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<input type="checkbox"/> A. 充分にできている <input checked="" type="checkbox"/> B. ほぼできている <input type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	処方箋用紙だけではわからない薬の情報はネットで情報を集め掲示するなどしている。医師や訪問看護の意見を伺い、薬の持つ作用の情報収集に努めている。		<input checked="" type="checkbox"/> A. 充分にできている <input type="checkbox"/> B. ほぼできている <input type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	薬の管理は一人ではできないので、職員による管理についてはとても助かっている。薬の効果や副作用等について、処方箋以外からの情報も積極的に収集したり、掲示したりしている。また薬について学ぶ機会も設けており、よいことだと感じる。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<input type="checkbox"/> A. 充分にできている <input checked="" type="checkbox"/> B. ほぼできている <input type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	入所の際にご家族に、これまでの生活歴を可能な範囲でお伺いしている。入所後もこれまでの生活が継続できるよう、職員はミーティングで話し合いをしている。しかし、実際は、認知症が重度になるに連れて支援の難しさを感じている。入所の際に、重度化した際の介護の要望や意向を今よりもっとお伺いできるようにしたい。	重度化となった時にはご本人の思いを伺い、支援を検討していくことは難しいので、家族の思いも早い段階から聞くのは？		一人ひとりの生活歴を聞き取り、職員ミーティングで話し合うことで、利用者さんが楽しく暮らせることにつながっている。得意なことを役割として持ってもらえるような支援や子どもとのふれあいの中から、張り合いが出る生活が送れる。ご家族との連携も密に行なっていきたい。
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	<input type="checkbox"/> A. 充分にできている <input type="checkbox"/> B. ほぼできている <input checked="" type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	現在は、ドライブ、近くの散歩先に出ることがほとんどであるが、これまではお墓まいりや買い物、馴染みの喫茶店などにも足を運んでいた。ご家族、地域の方の協力もありサロンや馴染みの喫茶店にも出かけることができていた。	コロナとの共存となりつつあるなかで、今後の支援はどのように考えているか		コロナ禍で外出に制限がある。感染状況にもよるが、今後も馴染みのお店や、地域のサロン等、楽しんで外出できる支援を続けてほしい。本人とお寺で待ち合わせて、お墓まいりができご家族の中には喜んでいる方もいる。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<input type="checkbox"/> A. 充分にできている <input type="checkbox"/> B. ほぼできている <input checked="" type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	金銭の所持に関しては自由になっている。お金を持つことの大事さまですべての職員が理解しているかは難しいところであるが、全ての利用者さんの金銭管理をよつ業やご家族が代行する必要はないということはわかっている。現在買い物へ行くことはできないが、買い物の機会が増えれば、利用者さん自身で支払いをすることの大切さなども話し合いたい。			認知症だからと言って、生活するうえで必要なお金の扱いをさせないのではなく、自然に使えるよう支援している。利用者の尊厳の確保にもつながるものと考えられる。
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<input type="checkbox"/> A. 充分にできている <input type="checkbox"/> B. ほぼできている <input checked="" type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	電話は主に不安や、帰宅願望の強い時に利用している。しかし、日常的に話せる環境づくりや声かけをしていつでもご家族を思えるよう支援していくことも大事だと思う。ラインもさらに活用したいと思う。			LINEの活用やタブレット購入の検討など、コロナ禍において、ICTの導入も視野に入れている。家族とのつながりを保つためにも、利用しやすい環境整備が必要だと思えます。
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input type="checkbox"/> A. 充分にできている <input checked="" type="checkbox"/> B. ほぼできている <input type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	作品の掲示、花を生けるなどで季節感を出している。食堂、ソファスペース、ウッドデッキなどがあり、自由に行き来できる空間ではある。場所案内には、利用者さんが作った看板があり、看板だけでは不十分な利用者さんのためにさらに案内表示をする工夫もしている。		<input type="checkbox"/> A. 充分にできている <input checked="" type="checkbox"/> B. ほぼできている <input type="checkbox"/> C. あまりできていない <input type="checkbox"/> D. ほとんどできていない	畳の小上がり、ウッドデッキ、ソファスペースなど、趣向の異なる複数のスペースがあり、利用者さんが自由に使えるようになっている。安全性の確保に努め、居心地の良い空間がいつまでも続くようにしてほしい。

IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)

40		本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ご本人で日常を決定できるような声かけをする支援を行なっている。誘導になってしまうことや本人の希望通りかな？と疑問に思うこともあるようだが、職員の間では、自身の行動を振り返ることもできているので「本人主体」を意識した支援はできていると思う。			入所時に、これまでの生活歴等を詳しく聞くことで、利用者さんの思いや暮らし方を把握し、意思決定ができるような声掛けを心掛けている。
41	本人主体の暮らし	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者さんの日常生活、にこれまでの生活歴を意識した支援を心がけていると思う。ご本人の困りことやできないことに気を取られすぎず、利用者さんのこれまでの暮らしの中で大事にしてきたことや思いを出せる暮らしを支援していきたい。			入所時に、これまでの生活歴や大切にしていたこと、お気に入りの場所等を聞くことで、日常の支援に活かしている。また、日常生活の中からも、本人の思いなどを汲みとった支援をしてほしい。
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	内科往診医の利用、歯科往診、毎週の訪問看護で健康面でサポートしていただいている。よつ葉は病院併設や医師が定期的に訪問しないので、発熱になれば指定の病院でご家族と共に発熱外来にかかったりなどご家族の協力も欠かせない状況である。発熱のたびに受診依頼をお願いするのは申し訳ないが、徹底してクラスター発生防止に努めたい。		A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日頃のケアは、医師等の往診で適切に行われていると思われる。発熱時の対応など、家族に頼る部分も多いが、家族の理解を得ながら、継続して支援を続けてほしい。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者さんの一人ひとりの生活リズムを考慮し、日常生活のなかで一人ひとりが持つ力を生かしながら生活できていると思う。歳をとると面倒や億劫になることもあるので、その時の気持ちを前向きに変えられるような言葉がけも心がけている。			認知症により理解できていないこともあるかもしれませんが、できることを自分でできるよう、声掛けや誘導を行っている。個人の能力を活かせるような支援を継続してほしい。
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A. 充分にできている B. ほぼできている ✓C. あまりできていない D. ほとんどできていない	そのように、している利用者さんもあるが、コロナの影響でリハビリパンツやバットを一度に購入するようになり、そのような物品で居室が物置のようになってしまい、プライバシーの面からもオムツ等の取り扱いや片付けに配慮する必要がある。		A. 充分にできている B. ほぼできている ✓C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で、日用品等の大量購入で場所がとられてしまうことが発生しており、致し方ない部分もあるかと思いますが、施設として利用者さんが気持ちよく生活できるよう、必要な量、必要なものについて検討してほしい。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない ✓D. ほとんどできていない	コロナの影響で2年弱のような活動に取り組めていない。ご本人の意向を伺い、コロナが落ち着いたら行きたいところなど計画するのも今後の支援に入れたみたい。	よつ葉内での開催は検討していないのか		コロナ禍で、希望する外出は難しいと思います。今後、感染症が終息するなど、気兼ねなく外出できる時が来た際には、本人の意向を聞き、楽しく外出できる機会を作ってほしい。よつ葉でのイベントを増やしたら良いと思う。
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみことを行うことができています	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ご本人の持つ力や得意なことを生かし、日常の掃除、洗濯干し、畳、食器の片付けなどを行なっていただいている。自発的になるような声かけをしていくのも必要。食事の場面では、自分で持てるよう、ご飯をおにぎりにしたり、食べやすい大きさに分けたり、お盆お活用、黒色の茶碗などを活用し、個人の力によって提供方法を変えている。			利用者さんの得意なこと、できることなどを取り入れ支援していると思う。引き続き利用者さんが生き生き生活できるよう支援をしていただきたい。
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者さんと職員の会話の時間を多く持つようになり、利用者さん同士の会話の時間を持つように努めている。昔の話を話される時や得意なこと、楽しみ話を話される時はとても生き生きしている利用者さんが多いので、その時間を大切にしている。		A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員がそれぞれの利用者のことをよく理解され、話を聞いたり役割を作って実践してもらおうことで、いきいきと生活できるよう努めている。利用者さんの話に耳を傾けてくれる職員が多くなるのは心強い。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない ✓D. ほとんどできていない	馴染みの喫茶店、地域のサロン、スーパーでの買い物、野菜を持ってきてくださる人との交流などを積極的にこなしていた。コロナが収束したら再開したい。			コロナ禍で外出に制限がある。感染状況にもよるが、今後も馴染みのお店や、地域のサロン等、楽しんで外出できる支援を続けてほしい。
49	総合	本人は、このGHIにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 充分にできている ✓B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者さんの多くは、納得する間もなく入所に至った方が殆どです。入所後の2、3ヶ月には多くの利用者さんが帰宅願望、混乱、怒り、悲しみを持ち、現状を受け入れようと葛藤されています。本心のところでの満足を得るのとはとても難しいところではありますが、職員は一人一人「今日」や「瞬間」を充実させて送っていただければ、努めています。また、安心して暮らせるよう利用者さんと職員は積極的に言葉を交わし信頼関係を築こうと頑張っています。		✓A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	とにかく利用者さんが穏やかに暮らしているのがわかる。多くの利用者さんを見てきた施設だからこそ、利用者さんの本心がわかるのだと思います。帰宅願望等が現れた際も、職員の皆さんが一人一人の利用者さんに寄り添った対応を心掛け、利用者さんやご家族はもちろん、地域からも愛される施設となるよう、今後も努めていきたいと思っています。